

○阪神高速道路・神戸線(深江)
昼夜を分かつ、総力を投じての
13日間の撤去作業



撤去作業

阪神高速道路・神戸線、倒壊す!

震災により阪神高速道路・神戸線が635メートルにわたって国道43号線(上り車線)側に倒壊。同神戸線も倒壊物に占拠された4車線が通行不能に。下り車線も、危険回避のため通行可能は2車線のみで片側1車線ずつの対面通行となり、平常時でも渋滞気味の国道43号線は、救急車・緊急資材運搬車・災害復旧車両・知人をたずねるマイカー等で埋めつくされ、終日大渋滞の様相を呈していました。



1日も早い国道43号線(上り車線)開通に向けて

被災地へのすみやかなアクセスを確保し、救援活動、復旧作業の便をはかるため、重要ルートである国道43号線を占有している倒壊構造物の一刻も早い撤去が急務でした。倒壊構造物は、橋脚17基、橋面13,018㎡。

震災の翌日、平成7年1月18日に工法の検討に入り、近畿周辺はもとより全国各地から大型破砕機を集めて(会員6社)24時間体制の作業に取りかかりました。

作業のピーク時に投入された大型破砕機は1日あたり70tクラス2台、40tクラス24台、30tクラス24台、20tクラス48台。ホイールローダー20tクラス4台、トレーラー50台、11tダンプ66台等多数の重機連動がフル稼働。1日あたり500人以上の職員、世話役、作業員、高工、特殊運転手等を投入し、まさに総力を挙げての撤去作業が続けられました。その結果、当初45日かかると見られていた作業を13日間で完了。1月30日夕刻には、国道43号線の上り各2車線を開通させることができました。



撤去作業



撤去作業

アメリカ合衆国より
ボランティア来日

撤去作業中、アメリカ合衆国よりボランティア活動の一環として作業に参加したいという申し入れがあり、技術者をともなって「ファイアージェット」の紹介に来日するという一幕もありました。

関係各社は、さっそく現場実験に立ち会いましたが、今回のケースでは、倒壊構造物が巨大すぎてファイアージェットの使用は不可能との結論に到達。日米の合同作業は実現しませんでした。



ファイアージェット



実験状況